

石西礁湖自然再生マスタープランの構成

<p>前文</p>	<p>〔経緯・マスタープランの役割〕 新・生物多様性国家戦略と自然再生 石西礁湖自然再生マスタープランの性格・役割 石西礁湖自然再生マスタープランの構成</p>
<p>第1部 石西礁湖の現状と課題</p>	<p>〔現状と課題〕</p> <p>第1章 サンゴ礁生態系の現状分析</p> <p>第1節 日本における石西礁湖の位置づけ</p> <p>1 日本のサンゴ礁生態系の概観 世界中で最も多様性に富むインドー大西洋区に分布する造礁サンゴ類の北方限界</p> <p>2 石西礁湖のサンゴ礁生態系の特徴 サンゴ礁生物の種多様性が国内で最も高い海域 世界でも有数のサンゴ礁</p> <p>第2節 石西礁湖のサンゴ礁生態系の現状</p> <p>1 サンゴ群集の分布とその変遷 1980年以降大幅にサンゴ被度が低下 一部回復傾向が見られるものの、白化現象やオニヒトデ等の脅威にさらされている</p> <p>2 サンゴ礁生態系の現状</p> <p>3 その他の生態系の現状とその変遷 回復が進まず衰退傾向</p> <p>第3節 石西礁湖の利用の現状</p> <p>1 漁業利用 サンゴ礁の海にあわせた様々な漁法により盛んに利用</p> <p>2 観光利用 ダイビング等に盛んに利用されており、地域経済に果たす役割は大きい 漁業及び観光で地域経済に大きく貢献</p> <p>第4節 サンゴ礁生態系の保全に関連する制度の現状</p> <p>1 法的規制区域 1) 海中公園地区 2) 自然環境保全地域海中特別地区 3) 水産資源保護法に基づく保護水面</p> <p>2 漁業調整規則 保全する制度はあるが不十分</p> <p>第2章 サンゴ礁生態系の危機の構造</p> <p>1 白化現象 1998年以降、頻繁に起きており、石西礁湖のサンゴ群集に対する大きな脅威</p> <p>2 オニヒトデによる造礁サンゴの食害 1980年代初頭に爆発的発生、壊滅的被害2000年以降増加傾向</p> <p>3 赤土汚染 継続的に起こっている表土流入はサンゴ礁生態系に大きな被害をもたらしている</p> <p>4 水質の悪化 海域の保全だけでなく、陸域生態系の保全・管理も含めた総合的な検討が大変重要</p> <p>5 その他 サンゴの病気、沿岸海域の開発行為、アンカーによる破壊、ダイビングやスノーケリングによる破壊、違法採取など 多くの危機が存在する</p> <p>・石西礁湖のサンゴ礁は世界でも有数であり、地域経済にも大きく貢献しているが衰退傾向 ・保全制度もあるが、十分でなく、多くの危機が存在する</p>
<p>第2部 サンゴ礁生態系の意思とマスタープランの目標</p>	<p>〔理念と目標〕</p> <p>第1章 サンゴ礁生態系の意思</p> <p>1 恵み豊かな地域共有の海 地域の経済を支えている資源</p> <p>2 美しいやすらぎの海 安らぎとるおい、観光資源</p> <p>3 生活環境を支える海 人間も自然循環の一つの環 サンゴ礁と人間の安全性、効率性は両立</p> <p>4 生き物とのふれあいを学ぶ場 環境教育の場</p> <p>5 豊かな文化のみならず 地域個性、文化にとって不可欠</p> <p>第2章 マスタープランの目標と未来の石西礁湖のイメージ</p> <p>人為的影響が比較的小さかったと考えられる1972年の本土復帰当時、当面は現状より悪化させない</p> <p>「山と森と海と人々がつながり、岸近くにもサンゴが育まれている。すきとおった海のなかを、クジラブツダイが群れ泳ぎ、ギンガが泳ぎ、サンゴのお花畑が咲き誇っている。イノーはモズクとアサ採りのオーバーで賑わい、サバニの上のオジロは今日も笑顔で帰ってきた。夏の日差しに、水しぶきをあげてはしゃぐ子どもたちの白い歯が眩しい。」</p>
<p>第3部 石西礁湖の保全及び持続可能な利用の基本方針</p>	<p>〔対応の基本方針〕</p> <p>第1章 施策の基本的方向</p> <p>第1節 5つの方向</p> <p>1 保全管理の強化 陸域生態系の保全・管理も含めた総合的な検討、阻害要因の排除、海洋保護区の設定</p> <p>2 持続可能な利用 資源管理、漁場環境の保全、サンゴ礁生態系に配慮した観光利用、環境影響評価</p> <p>3 サンゴ群集の修復 サンゴの修復事業</p> <p>4 普及啓発 サンゴ礁の海とのふれあい、環境教育・環境学習</p> <p>5 調査研究 モニタリング、調査研究</p> <p>第2節 基本的視点</p> <p>1 予防的順応的態度 順応性と説明責任を備えた管理</p> <p>2 科学的認識 基礎調査、基礎的研究、情報システムの整備、ネットワークの構築</p> <p>3 統合的アプローチ 社会的側面、経済的側面、各種計画との連携</p> <p>4 情報公開・参加・合意形成 積極的な情報公開、広範な主体の参加、十分な合意形成</p> <p>5 連携・共同 関係機関が一体となった総合的な取組</p> <p>6 国際的認識 国際的にも重要なサンゴ礁、低緯度地域との連携</p> <p>〔個別方針〕</p> <p>第2章 主要テーマ別の取組方針</p> <p>第1節 保全管理の強化</p> <p>1 重要海域の保全</p> <p>2 オニヒトデ対策</p> <p>3 赤土汚染対策</p> <p>4 水質の改善</p> <p>第2節 持続可能な利用</p> <p>1 持続可能な漁業利用</p> <p>2 持続可能な観光利用</p> <p>3 サンゴ礁に配慮した各種工事</p> <p>第3節 サンゴ群集の修復</p> <p>1 サンゴ群集修復事業の基本方針</p> <p>2 サンゴ群集修復事業を実施する際の考え方</p> <p>第4節 普及啓発</p> <p>1 サンゴ礁の海とのふれあい</p> <p>2 環境教育・環境学習</p> <p>3 暮らしの中のサンゴ礁保全～ぼくの、わたしのサンゴ礁保全～</p> <p>4 情報の発信とネットワーク作り</p> <p>第5節 調査研究</p> <p>1 モニタリング調査</p> <p>2 調査研究の推進</p> <p>3 情報整備の推進</p>
<p>第4部 具体的施策の展開</p>	<p>〔個別施策、各主体の施策〕</p> <p>第1章 保全管理の強化</p> <p>第1節 重要海域の保全</p> <p>1 保全すべき重要海域選定の流れ</p> <p>2 海中公園等法的海洋保護区</p> <p>3 コミュニティベースの海洋保護区</p> <p>第2節 オニヒトデ対策</p> <p>1 対策を行う海域の設定</p> <p>2 今後の対策</p> <p>第3節 赤土汚染対策</p> <p>1 基本的な考え方</p> <p>2 農地からの赤土等流出防止対策の取り組み</p> <p>3 地域が一体となった総合対策の推進</p> <p>4 石垣島周辺海域環境保全対策協議会の取り組み</p> <p>第2章 持続可能な利用</p> <p>第1節 持続的な漁業利用</p> <p>1 基本的考え方</p> <p>2 八重山海域の水産資源管理</p> <p>3 漁場環境等の保全</p> <p>第2節 持続可能な観光利用</p> <p>1 エコツーリズムの推進と保全利用協定</p> <p>第3節 サンゴ礁と共生する港湾整備への取り組み</p> <p>1 概況</p> <p>2 石垣港における取り組み</p> <p>3 その他の取り組み</p> <p>第3章 サンゴ群集の修復</p> <p>第1節 サンゴ群集修復事業</p> <p>1 サンゴ群集修復種法の検討</p> <p>2 サンゴ群集修復事業実施海域の選定</p> <p>3 移植後のモニタリング</p> <p>第4章 普及啓発</p> <p>第1節 自然とのふれあい</p> <p>1 海の自然教室</p> <p>2 ビジターセンター等普及啓発施設の設置</p> <p>第2節 環境教育・環境学習</p> <p>1 環境教育プログラムの開発</p> <p>2 子どもパークレンジャー</p> <p>3 人材の育成</p> <p>第5章 調査研究</p> <p>第1節 広域モニタリング</p> <p>第2節 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター</p>
<p>第5部 今後の展開</p>	<p>〔まとめ〕</p> <p>1 石西礁湖自然再生協議会（仮称）の設置</p> <p>2 各事業主体との連携</p> <p>3 実施施策の評価</p>